

公共健康医学専攻

I	教育水準	教育 6-2
II	質の向上度	教育 6-5

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、3つの大講座で研究科が構成されている。近年、社会的要請の高い、予防実践、臨床疫学、医療経済、臨床情報工学の強化を目的として新たな分野も開設された。専任教員数は設置計画を上回っており、学生収容定員数52名と1:2.4の構成比である。また、教員の中に6名の長期の実務経験者を配置し、実務に強い専門家養成を行っている。さらに、医学系の2講座から協力を得て研究科の教育目的達成の強化を図っているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、平成19年10月から講師以上の専任教員で構成する教員連絡会議で教育内容、教育法の改善に取り組んできた。ファカルティ・ディベロップメント（FD）におけるカリキュラムや修了者の進路に関する講演と討議、学期修了時の履修学生への授業評価のアンケート調査等を行い、研究論文の有用性や政策提言可能性等を加えた新たな学生評価を取り入れたなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、公共健康医学専攻の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、公共健康医学専攻が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準を大きく上回る

[判断理由]

「教育課程の編成」については、健康の維持・増進に関わる専門家の養成を疫学・数量分析、保健医療に関わる行動科学・社会科学、保健医療の政策・評価・マネジメントの3分野の科目群の教育課程で行っている。また、公衆衛生学における大学院修士課程のグローバルスタンダードとして必要な科目も組み込まれている。さらに、当該専攻設置後、保健医療の供給制度の改革への社会的要請に対応するため新たに、「公共健康医学特論」を開講したなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、現在の社会が抱える公衆衛生上の諸課題に対応できるよう教育内容を拡充し、社会や入学希望者の要請に応えている。また、標準修業年限2年のコースに加えて、一定の経験を有する社会人を対象に標準修業年限1年コースも開設して、就学の多様化を図っている。平成19年の設置初年度末には、休学者1名を除く9名全員が修了したなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

特に、今日の公衆衛生の諸課題に対応する先端的な教育課程で編成されており、この分野の国際的資格であるグローバルスタンダードもクリアしている。また、学生の多様な修学のニーズに対応するよう運営されており、社会の要請にも応える公衆衛生領域の専門家を養成しているという点で「期待される水準を大きく上回る」と判断される。

以上の点について、公共健康医学専攻の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、公共健康医学専攻が想定している関係者の「期待される水準を大きく上回る」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、授業形態は、講義、演習、実習、課題研究から成っている。夏季あるいは春季には、公衆衛生実務を体験するインターンシップが組み込まれている。年度当初に修学に関わる事項に加えて、4種類の履修モデルを記したシラバスを配布するとともに、必要に応じて学習指導を行う教員が配置されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、必須科目の単位数を修了要件の3分の1程度に抑え、様々な選択科目を履修できるようにしている。また、1学期間の履修可能単位に上限を設け25単位としており、学生は20単位程度（約11科目）を履修している。また、医学部・医学系研究科の学生のための共通自習室を図書館に開設するとともに、本専攻学生用の大学院室（座席数30、個人ロッカー42）があるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、公共健康医学専攻の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、公共健康医学専攻が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、標準修業年限1年コースの学生で、休学1名を除く9名全員が、ようやく修了した段階であり、それらの修了者のその後の社会での評価に関して十分なデータがまだないが、修了者が高度の専門性が要求される医療機関等に就職したり、大学院博士（後期）課程に進学したりしていること、あるいは2年コースの学生から創立130周年記念事業で「優秀賞」を獲得した学生が出ているなど、本コースの学生は、高いレベルの学力や資質・能力を身につけているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、学期終了時に実施される授業に関するアンケート調査で回答があった33の授業科目のうち、17科目で総括評価（5点満点）の平均が、4を越えており、その他の科目でもすべてが3以上の平均総括評価であったなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、公共健康医学専攻の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、公共健康医学専攻が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

判定しない

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、初めて修了者を出した1年コースの学生の進路では、休学者1名を除いた9名全員のうち、4名が医療機関に就職、3名が社会学系の大学院（博士課程）への進学、1名がNGOに参加、1名が台湾に帰国し医療機関に就職しており、当初想定した主な進路である「臨床研究・EBM、臨床試験等を担う専門家」や「保健系シンクタンク・NGO等のアナリスト」の分野に実際に進出しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、第1期生が平成20年3月に修了しており、関係者からの評価を判断できる状態にないことから、段階判定は行わない。

以上の点について、一方の観点に対し「段階判定は行わない」との判断を行ったことから、進路・就職の状況は「判定しない」とすることとする。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は1件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。